

## 追悼文

## 城 一夫先生を偲んで

In Memory of Kazuo Jo

渡辺 明日香

Asuka Watanabe

共立女子短期大学

Kyoritsu Women's Junior Collage

2023年2月7日、共立女子学園名誉教授・日本色彩学会名誉会員の城一夫先生がご逝去されました(享年85歳)。美術、装飾、映画、文学、ファッション、デザイン、建築などの幅広い分野に精通され、甘いものがお好きで、エルメスのネクタイを愛用される、お洒落な先生でした。

城先生は、青山学院大学英米文学部をご卒業後、1960年に通産省傘下の(財)日本繊維意匠センターに勤務され、デザインやファッション、色彩に関する仕事に従事されました。兼務の職歴も多岐にわたり、六甲アイランド都市開発や美術館構想など、規模の大きな役職も歴任されました。

1990年に共立女子短期大学の教授に就任され、色彩やファッション、デザイン、映像文化などの授業をご担当されました。カラーコーディネーター検定の資格対応のための課外授業の立ち上げにも尽力なさり、多数の学生が資格取得に励みました。学生に対する教育にも大変熱心で、色彩に関わる仕事や研究職に従事している卒業生も多数おられます。

1992年の日本色彩学会入会以来、理事・評議員・代議員を歴任なさり、1997年に色彩文化研究会主査、1999年にカラーフォーラムジャパン実行委員、2002年の「色彩用語事典」編集委員など、学会活動への貢献も多岐に渡りました。1998年から2016年にわたり、「カラーコーディネーター検定1級第1分野ファッション色彩」の委員や編集長、作問委員長をご担当になり、検定試験の活性化に貢献されたことも特筆すべきことでした。関東支部総会や色彩文化研究会、パーソナルカラー研究会等の研究会での講演を聴講された受講生や、著書の読者の方々が色彩学会に入会されるなど、新規入会促進にもお力添えいただきました。

講座に参加される研究熱心なメンバーを率いて研究会を発足なさり、城先生の監修により『色で巡る世界と日本』(2015年)、『配色の教科書』(2018年)、『世界のふしぎな色の名前』(2022年)を刊行されるなど、研究者の育成、色彩文化の教育普及にも尽力されました。これらの功績から、2019年に第23回日本色彩学会賞と名誉会員のダブル受賞を果たされました。東京工芸大学で開催された第50回全国大会

での受賞スピーチでは、ピカソの『ゲルニカ』を例に、「色には救いがある」とのメッセージをお寄せいただき、受賞を大変喜んでおられました。

2007年に定年退職なされると、「これからは心おきなく執筆ができる」とおっしゃり、いっそう精力的な執筆活動を続けられました。海外添乗員でいらしたお嬢様のご案内で、モンサンミッシェルを旅行された時のことを嬉しそうに話してくださいました。

色彩文化に関する豊富な知見と研究成果は、著書や講演、展覧会企画等で惜しみなく紹介され、単著や編著の代表的な作品だけでも50冊以上にのぼります。城先生は、執筆に際し、資料を丹念に調べ、編集者の意見を尊重され、周りの方のおかげで出版ができたとおっしゃり、常に妥協せず、しかも謙虚でいらっしゃいました。絵画やファッション、プロダクト等のすぐれた作品の色や配色の歴史や背景を解説した内容は、多くの読者を魅了しています。著書の一部は中国語や韓国語に翻訳され、テレビ番組やラジオで紹介されるなど、研究成果の一般向け、国外への紹介にも尽力されました。生涯学習や公開講座でのご講義も数多くこなされ、飛行機や新幹線でおいでになる熱心な受講生もおられました。

まだまだ執筆したい著書、紹介したい講演テーマなどが多数おありだったと思います。仕事熱心な城先生でしたので、天国でも執筆の続きをされておられるような気がします。城先生は「類のないもの」「古びないもの」をモットーに研究や講演、執筆活動を精力的にこなされました。その成果は、これからはずっと読み、語り継がれていくものと信じてやみません。

城一夫先生、これまで本当にありがとうございました。どうか安らかにやすみください。

